

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業  
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究  
分担研究報告書

肝硬度は原発性胆汁性胆管炎の病期を予測できる

研究協力者 梅村 武司 信州大学医学部内科学第二教室 教授

研究要旨：FibroScan を用いた肝硬度測定が原発性胆汁性胆管炎の Nakanuma 分類が予測可能か 74 名の患者で検討を行い、非侵襲的に予測する方法の一つとなりうることを明らかにした。

共同研究者

城下 智 (信州大学)

A. 研究目的

原発性胆汁性胆管炎 (PBC) の病期診断について FibroScan を用いた非侵襲的な方法で評価することが可能かどうか明らかにすることである。

B. 研究方法

74 名の PBC 患者において FibroScan を用いて肝硬度を測定し、Nakanuma 分類による病理学的進行度、他の線維化マーカーとの関連性について検討した。(倫理面への配慮) 本研究は信州大学医倫理委員会で承認済み (3504 番)。研究対象者に対して書面でインフォームド・コンセントを取得している。

C. 研究結果

肝硬度は Nakanuma 分類と有意に相関を示していた ( $r = 0.501$ ,  $P < 0.001$ )。肝硬度は M2BPGi、FIB-4 index とも有意な相関を示していた。肝硬度と M2BPGi の組み合わせは進行 PBC を鑑別可能である。

D. 考察

FibroScan は肝硬度を非侵襲的に測定可能な方法であり、様々な肝疾患で有用であることが報告されており、今回 PBC の Nakanuma 分類における病理診断との関連性について明らかにした初めての報告である。

E. 結論

FibroScan を用いた肝硬度の測定は PBC における非侵襲的に予測する方法の一つとなりうることを明らかにした。

F. 研究発表

1. 論文発表

Joshita S, Yamashita Y, Sugiura A, Uehara T, Usami Y, Yamazaki T, Fujimori N, Matsumoto A, Tanaka E, Umemura T. Clinical utility of FibroScan as a non-invasive diagnostic test for primary biliary cholangitis. J Gastroenterol Hepatol. 35 1208-14 2020.

Yagi M, Matsumoto K, Komori A, Abe M, Hashimoto N, Inao M, Namisaki T, Kawata K, Ninomiya M, Fujii H, Takahashi A, Kang JH, Takamura M, Arakawa M, Joshita S, Sato K, Itakura J, Nomura T, Kakisaka K, Kaneko A, Tamura Y, Miura R, Aiso M, Arizumi T, Asaoka Y, Kikuchi

K, Takikawa Y, Masaki T, Umemura T, Honda A, Ohira H, Kawada N, Yoshiji H, Mochida S, Takikawa H, Tanaka A, Japan PBCSG. A validation study of the Ursodeoxycholic Acid Response Score in Japanese patients with primary biliary cholangitis. Liver Int 40 1926-33 2020.

## 2. 学会発表

山下裕騎、城下智、梅村武司・PBC患者の骨密度低下拾い上げにおける骨粗鬆関連マーカーの臨床的有用性について・第43回日本肝臓学会東部会・オンライン開催・2020年12月3日

山下裕騎、城下智、梅村武司・PBCにおける脂質異常症とLOX-1との関連 第24回日本肝臓学会大会・オンライン開催・2020年11月5日

山下裕騎、城下智、梅村武司・原発性胆汁性胆管炎(PBC)における初診時生化学検査所見と、予後予測式が予測する夜ごとの関連・第56回日本肝臓学会総会・オンライン開催・2020年5月21日

## G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし